

一般演題8-3 高気圧酸素治療立ち上げに関わって

卜部可南¹⁾ 胡 範明¹⁾ 坂本晴菜¹⁾
小林あさみ¹⁾ 浜岡一幸¹⁾ 橋本正樹²⁾

1) 県立広島病院 臨床工学科
2) 県立広島病院 総合診療科

【はじめに】

当院は、712床、21の診療科があり、救急医療、がん医療、成育医療を柱とし、基幹災害拠点病院として認定されている。

2015年の4月、突発性難聴に対する治療の一環として、高気圧酸素治療（以下、HBO）を開始した。

前年度より、新規治療立ち上げのワーキンググループ（以下、WG）を発足した。メンバーは、医師（臨床工学科、耳鼻科、救命センター）、看護師（看護部、病棟、外来）、医療情報室、事務、臨床工学科から選出された。今回、WGで準備から導入に関わる機会を得た。導入から7ヶ月経過し、振り返りを行い、問題点・課題などを報告する。

【準備】

HBOを実施している他施設に治療疾患、専門医の有無や、装置操作者、治療記録の保存方法などをアンケート形式で情報収集した。また、近隣施設見学、昨年の本学会参加等で情報を得た。

治療室の設置工事の会議では、安全見学施設から頂いたアドバイス等をもとに、エアコンや照明の位置等を要望した。

WG会議では、該当患者発生から、治療までの流れのその中で、予想される各部門での業務から、各部門でマニュアル等を作成した。医師は、近隣施設から情報を集め、患者説明書、同意書を作成した。看護師は、目視によるボディーチェック、加圧減圧での立ち合いの為、マニュアル作成した。医療情報スタッフは、電カル上、必要な入力フローを作成し、予約入力から、コスト入力までのシステムを作成した。事務スタッフは、近隣施設への案内を作成した。MEはボディーチェック表の作成と、WGの事務局となり、会議を運営した。

事務スタッフが患者役となり、医師、外来看護師、

病棟看護師、臨床工学技士、医療情報スタッフで、患者の外来受診時から治療終了までの全体シミュレーションを実施し、各部門での反省点、患者役からの感想等から、再検討し、各部門でのシミュレーションを繰り返した。

その中で、MEは治療の流れ、装置の操作、レポート作成方法、新規患者への説明時チェックリスト、装置の日常点検表などを作成した。

また、治療中の患者急変時の対応に関し、救命センタースタッフの協力を元に、急変時手順作成し、シミュレーションも行った。

【実施】

開始から、7か月の実績は、入院の突発性難聴の患者50人に対し、328回のHBOを実施した。1日4件の枠としており、57%の稼働率であった。

他施設の方々の協力や助言を得て、万全の準備でHBO開始を迎えたが、実際開始すると様々な問題が起こった(表1)。その都度、GWメンバーで解決してきた。

【課題】

まだ残る課題として、下着なし、目視でのボディーチェックへの一部の看護師からの不満、加圧・減圧の立ち合いをなくしたいという要望などにどう対応するか、休日の治療への対応、稼働率の低さから、今後他科への拡大を指示されており、専門医不在の中、今後HBOに不慣れな医師に対しての指導、停電時・災害時などのマニュアル作成などがある。

【まとめ】

今回、HBOの立ち上げに関わることができ、WGメンバーと協力しあい、運用を開始することができた。今後は未解決の課題を解決しつつ、院内でのHBOの拡大を進めるとともに、学会活動にも参加して行きたい。

表1

施行時の問題点
中耳炎が起こった
治療禁忌の問い合わせ
持込物品の問い合わせ
患者からの問い合わせ
決めた治療枠以上の治療依頼
他科からの問い合わせ、治療依頼
スタッフ間でマニュアルの共有ができていない
患者の意思疎通が取れない事例